

まえがき

新型コロナウイルスに続いてサル痘ウイルスと世界中の心配事が絶えない1年間となりました。新型コロナウイルスにおいては勢いの収まる気配が見えません。人類は過去に同様の危機を何度も乗り越えてきた英知があり、今回も乗り越えられるものと信じております。一日も早く以前のような社会生活、活動レベルに戻り、技術職員の本分である技術支援業務に専心できることを願っております。

昨年度から始まりました技術職員改革については、まだまだ明確な情報が出てこない状況であり、奥深いトンネルの暗闇の中で対面の光が見えずに不安を感じる技術職員が多数いるのが現状です。防災研究所は、教員の負担増加、技術職員の孤立、技術支援不足など種々の課題を解決するために、平成8年に技術室を設置しました。技術職員の組織改革としては、既に四半世紀に渡り技術室としてその活動実績を内外に示してまいりましたが、大学本部まで伝わっていなかったことを痛感し、技術室があることのメリットを更に理解いただくよう努力しなければならないと考えています。また近年、技術者不足で特に大学（官公庁も含めて）の技術職員への就職を敬遠する傾向が続いていることから、技術職員の処遇改善は必須と考えます。魅力ある処遇改善となるよう今回の技術職員改革が進むことを切に望んでおります。

さて、技術室の令和3年度の活動成果をまとめた技術室報告第23号が完成しました。ご高覧いただき技術職員それぞれの支援実績や持っているスキルなどを知っていただくと幸いです。これまで第1号から第23号まで大先輩技術職員の活動も含めて、すべてが技術室の活動データベースと呼べるものです。技術職員の様々な取り組み、創意工夫、多種多様な業務が掲載されています。過去に掲載されたのも併せてご高覧いただければ幸いです。また、昨年度から始めた新規採用職員の紹介も皆様から好評いただき、今年度も技術室に新しい仲間を迎えることができましたので併せて掲載しております。

報告書の発刊にあたり、多大なご尽力とご支援をいただきました執行部、技術専門委員会をはじめ教員、事務職員、そして関係者の方々にここに心より厚くお礼申し上げます。

令和4年(2022年) 8月

京都大学防災研究所 技術室

室長 吉川 昌宏